

樹脂常温粉碎機を導入

フィルム・管材向けの

I Mマテリアル

アイ・エム・マテリアル（大阪市北区、岩下博信社長）は事業領域の拡大を目的として、現在保有している樹脂の低温粉碎機に加え、常温粉碎機を導入した。新たな機械を導入することによって顧客対応の幅を拡大し、より多くのニーズに対応していく方針だ。

アイ・エム・マテリアルは岩谷瓦斯と森六の合併会社で、ポリプロピレンやフッ素樹脂、ポリアミド樹脂など各種樹脂の低温粉碎の受託加工を行っている。岩谷瓦斯の宇治工場内に京都工場（京都府宇治市）を持ち、ここで生産される液体樹脂を利用してロールシートやペレット、塊状物などさまざまな形状の原料を冷却硬化し粉碎している。コンタミネーションフリーの超高純度ガスをハンドリングする技術と低温技術をベースにケミカ

ル技術を融合し、精度の高い粒度コントロールを実現しており、常温粉碎では対応できない低融点樹脂や弾性が強い材料の粉碎も可能となっている。低温粉碎後のパウダーは自動車や家電、半導体分野での材料コーティングや、高分散・高充填樹脂コンパウンドなどの用途で使用される。

低温粉碎がこのような高度かつニッチな用途が中心になつていて、常温粉碎は汎用的な用途が多い。今回、常温粉碎機を導入したこと

で、今後幅広い用途への展開が可能になる。さらに低温粉碎の場合、液体樹脂を使用するため常温粉碎に比べコスト

が高くなるが、常温粉碎機では液体樹脂を使用しないためコストを抑えたニーズにも対応できるようになる。

同社は常温粉碎で想定される用途として、農業・食品フィルムや配管用のパイプ向けなど幅広い市場を想定している。